古法花譜 一

平治物語卷第一目録

信頼信西不快事

信頼心信西被亡滅事

三條殿資向付信西高示燒拂事

信西子息顯憲被流事付藤原令上洛事

信西知家中未再勢被付京勢事

信西首實檢事付大路渡被掛獄門事

唐僧來朝事

叡山物語事

送六波羅紀州被下馬立事

内閣文庫

元亨元年二条内府参内并無許昼寝付法皇六波羅へ御幸
信西子息被宥遠流事
流罪所行事
同六波羅行事并
源氏勝訴事

平治物語巻第一

信頼信西不快事

むかしのいにしへ人皇文帝北面
をたさ先は無八元九ゝをとなりゆるされ
うたもものを見くくをあまたにんじゆを包
まみくくろくとうゆへなり君臣をえら
ひくなとさつけ給ふものをとうまとう
とうなりはをとくうしろ成をせり
并常をびしてをとゝいへのとかうの人よ
永流九年ゝをとうまとうかあるとを横横

んこうとうを海嘉れ給ふ雲をあらはしくり
かへすと羽翻れ用ひられ帝王の国を
おさめしかるに後醍醐天皇はまた
とうばつ国れきやうの者共を
まり任使を人をこうぶりて天下をつ
いに海をとりしづめ給ふ
てまた人民を賞とわ法あてをれ
ぶく文武二道をもつて文武
をつくしたまふ文武
武をもつてを賞れらんをみむ天下をた

もち国をおさめしるくをりまれを文をひら
まし武をとをれよをとををををを人の
やりれものごとしをををををを
かをををををををををををををを海
り凡はれをををををを八義民屋れをを
なをれををををををををををををを
てをいををを凡をを民をを
ををれををををを用をを
抽賞をを凡をを勇士ををををを唐の
太宗文皇帝をを元げをやいく功臣を

そもそも血とも涙とも成て戦士となんで
しかじかの話をかんのそのよはひ命い義
よりつくかの話りけもてしまとの話さんりと
てまどそで死とてそもしりとをかんの
りとなんそつくよとかしもしもとくて
かてねとも人うの話さしとほとせで人皆
儀をけをえどんねいの使を囲れとなくなり
ふいそとあるれゆふなかるそひせいをと市
知よきりの論神人もどくとりく忠貫乃
とをもかで見よあるそをとをくそれのんを

かんの話ざしとてるひく冨貴人れとをさにる
ざるすとるしむ見れるんやれなるも
なをるるやをるかるをみるをるをるよるる
るどんの中納言藤中文どんを文古典門れを
岩原納長信彰をとるの人ありさ人信の
祖わるは法ねれ見とるの四百公い中富
乃滝八代れるるりまれ三位季隆が祖
いよれ三位中隆のみしるれどもをもわる
を寄をもるるとなるいをなるそで
てるかんよれをるるく昇を乃てるれど

[illegible]

[illegible]

[illegible]

業をはぢめとしてどこも諸方道学しく法
りょうりゅうどこかる流百家よりこの南世
ぶさんなりとは四の乃
上皇れ四代のと紀伊れ二位の乃りとこるふ
りく保元三年ものこのこの天下れ大
小事とこの紙のまこよりとこるふて無し
なるあととつぶすれそこらとれこし
近人乃思いまこの紙に大内よ記録西と
なこの理地とん室りとせいぞんこるて
なるもこんぞんこのこの世と

どんそよ帰し君をげこのんよりて
さそまりこの近衛天皇れ二てこもぞぐ
ど義懐惟成ぐ三年よりこもられこり大内を
久しくこのざこ世こまこでんわ
けいさしこのこのこの

かまくせいはのこと年と申どして不日
よなるものとども民はしげくひもなく国の
はいへもなりまさりて内宴とまゝ此命ひさ
しくたえたりあはれをわこし神字筆法の
ほのぶりとまもくわいりとをもはれ
後世ひとりとぶ百年此世いかゝ
まぐごしきんわる保元三年八月十一日主
上ゐくみまとぐをひくゆるのふ
世づはしをかたりをはこ二條院なり
をんれとも信西が拾伝もいよ〳〵盛とあり
いくらぬるもいろ〳〵まもなくいくり
人伝報をうけてくわいもなくよりあり
ふしてかくなるぬるをもしぬ
あ雄たかなるとをのなるこ人
いなくて天魔ゝ二人ゝこゝろよ入ゝりまん
主中ゆくくしてしまもくふこのの
しきすこゝろ信西を伝報とうくいり
あるもゝ世ゝ天下ともあやあの関係も
ゝぎらんどる仁ものなひけまていまも
そこなくしばやとなりへとも面ゆふ

てうちんなりこう人はいうて鍋もさりうまれ
こうらとけくしあんとどのもうもう
はいぐらうどの所をうしん長うと信形もえ
なるものもこうの鍋もまこうなりよけ八合をまを
こぐんてうこんとむとうん若なるへしと
心のくけまていうなうこうりとうもかうし
てうこなうんと地をうこけうあう時信西よむ
うくこ上皇のうをなりけうて信形うたねを
乃ぞこりあいふかるうどしも重代清花
まんものよりうぐおどし時よりいくなうこうも

ありけうとうてへ流ととおうをまを
けまうし信西とうは世の中いうこいうとぞ
かうてうけうこし信形なうどうたねよりを
なうじうをれうのみぞうをとうぐんうあ仏
まうりうとうはうさうりうとうりくうをとう
叙位除目よむうこうといでうきねまでかうを天の
巍ぐうおうむうの上も人まんはうしまをけう
世のうこうこうしまいかうんのうんてう
よ繁うなりうこうあうぐうしうや阿弥陀仏
直うこと白河流大ねうよなうこんとおうう

そもそもしうごも寛治せいとのはじまりなれども
きたの中ぬきの中納言家成のときこの
ゐん大納言よなさいやとおぼしめしたちぬ
夫ぬ大納言よなりてきたの方へ入給ひ
納言よりてまいりたまひよりてぶんよりはじめて
ゐれいとぬきたまひてこれをやまねをぬ
てぬけうをはさしまゐやうにぬのちをもて
乃ぶこかきまゐ中ぬ出門新大納言殿へとあそんさ
きまうりけうをいとくい家んして西ときなさ
きとりてきうをもなとすぎうぬんがくゐ

はうをはぎしうほどかてぎをなすとておひた
なきぎとぬぎひうをはけうをぎけうをはぬ大納
言なとりてくえもうをかしうをはぬ
ゆうをはせとそいさぬとうぎいうんや未
乃大ねとやこうをまきをれうをはねをぬ
ねぎうはぬをきわうをとうをはいうをはぬ
かうをぬはうをくとせんぎをはぬなどうをと
をうをくはねとけうをさばいまくとうをとみいう
てうをうをくぬはとなりを天ぬをまうをほうをば
きをとうんまいそぎうをぬはうをはぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大風おもてをてりて一ぱくうちたてゝおん
とうゝ物をうちんあれまつけ也ども国主
世ゝ代わりいまれなる乱義和を保元
ぶん乱(らん)をおこしてうこそ家よりおぼしかりく
やをとうゝどをなとうち出とうちばいうく和ん
ぶ物ようゝ物ぎゝとぞかをうゝけつ和よ家ん
ざんぶんをびよを伝新てうゝ国をも庄
をもけども乱安かいをもようれんよ天気をも
子細あゝじとのうまふかやうよ所出よりを
らをを象ようよりうを大けいなりを伊ようを

所大ようをもうをりく一方をうゝ先
ようんとを物のうまいけうをなうゝと南
帝(てい)れぐくいせさ新天細を経京をもうゝ
いゆゝれ市門者中細をを成々れ三男ちち
ごれ中ね成親別ををれをさをうゝを
をものなりとうゝひ市先のとの屋ゝ惟
方をもをれもを中をも世ごりうを
をうゝれをごなりをよ武中をうをれかね
伯俊(かぶとし)とをしこをなしうゝ毎くごちごゝ
をけうゝやうよをうゝ先ごゝしをもを

うかでとをけてをたまふ平治元年十二月宮内卿
はるをとのくだんわりとしてらくし左兵衛佐
まをるをわひをしてくまの姫さんけいをもわ足
をひまをとりつくのあをうちをやう義朝をまを拾
さ信西をを紀伊二位をのりとうるをよりく
天下ハ大ふりをうく後のまをりをとうるい子
ともをよい及かしいほうおまをうをあ人信
西ハかさ西のりをを火ともあるをりなをと
ぞん拾いをぞくれをむぐをれし此入道をむさしく天
下をわりくをを国をを世をうをうを信

をさついをりをいなわを来をををををり世り
ををまをとををを拾つぐをなけまをを出いまり
世ををなをし、さとを四位をん拾ぞいをあをん
大武ハを拾ををををぐををんをををく源氏ハを人
ををを平をぼ世をんををををををををををを
をををををををををををををををををををを
義朝ハ信西をを六孫ををを七代をををん
乃ぶいををりくをををををををををををを
いまを世んぶををくををををををををををを
をりぞけ四をををををををををををををを

かつがくてしてきとなりまくさん海いこの毫を
ら是正義翔一人（よまり）なりまとへ（ほ）ほ盛も
ゆしさぞしてしいりんに皇てしりまかてご
乃まへすてしん（ま）てあるうりむぞ張く（てきよ
てしと孫しもかやしよ主ましをしとへいびん
ざして南家れぞりんしもして孫じ（ほ）しとしを
ゆへしとまけれくのがりかるまりまと
びくいりしれづりれを月一ゆりづりりで
（かりをしりびれしゆしてむしれり義翔
ほまんぐしけしまくもけしよまりく

くなくさしりていなりしりるこのさかぐれしりしもく
もりしてをりまを和（ヤン）陸のりをまでをいを海
ゆまあげさ帰くゆるしりるとれ合義れいぐしりに
るほどれ大りしりぐれるしりては
ゆりまりていまりくいりりがりんなりしも
なぐりやゆぐでしへさん合義て勝よいりしを
へりまりしりくりとりへ（ども小とりりく大
よ敵をぐしりもりせぐで新設（しんせつ）元基（もとき）重家（しげいえ）
しもゆれされへ（ま）りへりりしゆそ孫
氏しもゆりりりをゆりりりをりりは

とうて申しけるは信濃の国の住人
[illegible]
[illegible]
信濃やうの人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三條殿[illegible]西の海信濃の国の住人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

くるまとしてせくいさ絶さり（きさらぎ）
きけれしよ大さうけしよとき来くまをけ上皇
あくてゆくる殿よ絶さ主し御いうと乃上
西門流も元は出さよとをおひ寄くう
ゆくしく御車ゆくてまつりける信頼義朝
元義元基孝実ふぜんごさしよしつかた見
く大うちへいまさいつをを一騎乃出さごとわよて
こ絶さてまゆくやごて信頼の大将を殺さ天皇を
殿をゆくし判官ゆ志ざねちく信して言と
主御ごしてまゆくさてもいきを成て保元乱

乱れとときもさねきの流れにおるれたるんへむ
かしむぐだふふとしたゆびし
てはつまく源別へれさい御わしたも
多羽まていかしたゆへ為
二代乃まんを主御ごしつきんとんとあ
為主三陽度れまを海ゆしもをりなる門と
し御ものもつて絶さるあくり大とあぎ
うまやして絶さくよりくく暴風煙と
ひくゆる度と人御わるひ絶さくをりる
まて主をもんせいぐ一ぐくてやあくんとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もの[illegible]世々[illegible]
世安[illegible]く都[illegible]
[illegible]
[illegible]
なりとねがひの中ぞは[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
信西子息[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

わりなくさんせいのこゝろざしをとりて此
中ゐなりのさきをたゞさいかゝ武はなをもとなるまい
もしやいかりをそうるとて六ろうへかりまも
こゝろけうとせんじてゐいりまをこれをふ
ゆえさはまをてじちうをていてらまをを
をせ判官殿(さうのうへ)と此為成ゆきむしなをまのりを
けとりくゐをゐりへをいりけまをてこゝろへき
をさいけうをとて為ゆきをとるゐんの左
中ゐんをゐをまをりをしまをを
てこゝろををいかりけうと宗判官(むねのぶ)信泥(のぶざね)ゐね

いでしてゐをいてをこゝろよりこゝろをでゐをものゐ
をををまをりをまををを

よりつく政所といふやうとて文ぶん
ちかうちなれば上総介よりのぞきの
いきほひにて義朝ちやくしゝかれわく源左
義平をはじめとしてかうしゝ殺しをけ
けるうへこのよさんぐしきすわうまをしてじ
うくゝせのほりけるなれば京ゆ
合戦ありのよりわうんぐ義平ぜひなふ
ありけるとさいこいなれども大内ゆ小内ゆうん
ずいもなりいたくゝむへし合戦をみよく
はまいりまとれまへゝし義平ゆけるを保元よ

れば世ぜいの八幡殿の御子為朝と申人ゆ
て義人よなさしけるとぞ申ゝなりけるれ
と謗しけるとぞ申ゝなりけるれ義朝ゆ
ゆゆ人あべ聖ようをしひはるで下向ゆまし
ほどよりやうゝ武ぎりしてゆけんとわまん
中よりもこゆくゝ下向ゆまし
よあるゝしんと行ゆて山林へぞゆけりゆうん
ゆゆしんゝゝゆつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぜくゝんよりけくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

とんぐ先尼ぜんしゅうの中をたずねよう給てゐる
てなりゆせんせんせ義まさを高間ぜんくつぜんぜん
ぜんぜんじつまらぬてくしんくしのあく法ゑよ
てゐたんぜんそーけゐ信仏ぜんしゅうぶやう
ゐ仏ゆなりまぜんぜんぜん

さぶらひて、こうちけりとて入りたまひぬ。
ゆくえをたづねてまゐりぬ。はるかにとほりたる
家のうちもせばくかすかなる階つきのしつらひ
なりと大業もしげどゝ傷寒もいまだ
まゐらぬうちさる地にて弁殿よりもたなりぬ
日向より見こしたまひてなほうせ給ふ
て先づはゝをけうとう出家しける程へた
ゆかずへりたんとてぜんとりきけるよぜんが
よりんざうとりたすのうび剣れまつり
かつまくしらしくなりといふりんさうあ家
れどろさまひけるこゝろにゆくぐんあるふ
まりくとうとう遍へ来りたりまこと同れまま
乃四まへてさうまんよゆきあひりうれ
のまとりくこゝろしていくゆんとこと
ぐれ才人うれそでしすのうびまんのさは
かつくゆ命とまりまとよさとつまさ
乃ひうそいうふといひく一とまさしけうう
ゆくすあをもてどもてゆくこゝろなふりもそぐ
ぐうまけりもで通憲もさかりふぞとそうびき
けうぐれまとでいうふしてみぐりへされいつふ

いさ出家してやはりまてんとうん世まても七日
よりはまてんとぞいうんとぞふさてこそ下つ
しその前へ来り出家して後さしゆう日向
乃入乃とこぞまてんを世下りてしゆう
えとが納をとゆるしつゝ相見いとやとり
けまてしが納をを一乃人をなりまるどしてた
ちなくこゝろとてごさねなりまいうんとを
らまけるとやうしよりてゆるさまとかう
相見やてが家してが納を入乃信西とを
いけるこゝろもなくひとをかねよいてこゝ

あるひをを手よりあくせくをてしか
まりはすよすこぞのが神よりかとかくを
乃見いを聖人乃前よりさうゆしてこのが
をを出をけが出るこゝをがやしむしやくを
をてこゝをんよりあくを吉山をまりを
ほなをを出ごしというをこゝりなる信西乃日
むまの乃ゆくを白牧目をはゆねくをいふ天変
ををくくを秋出乃へ秋しゆうべをいをり
をりけるこゝやこのやうはいんをて流れん
出をよへいはををけをりゆゆしゆく

ゑとこうれゆきとしよりこそとりあつばをのけ
とさとりこそとりてせんもぶこりなるまでのあるあ
だしよりこそさいとりくまりいでり事を
前くこそのよしへ申紀伊の二位よりかしまのあ
ゑどもよりこそとりてせまへこんせいをなふむ孫
ありてくゑ高倉ゆくしとひけまてて
尼公も日尼ゑとなりけるまてもやりくふ
ゑしへとゑくさぶひ宮へあひぶしひ
さうせまさう月もけるようしけりくゑ孫
里成ぼとゑりぶしへ面部れうへかるまを

高原ゑ宮御へうを田原がわく大道ぶ
つふをよりをくよりまでゆきまけり石ぶやしれ
こうゑりぶとすぶけるとすぶとけり
よ又天ぶんわを木星ぶ命承りをを
大伯経典りとせるとさを忠信ゑかて
をとてとはをとつふ天ぶんなを信西かう
まよれぶるゑ天又ゑんげんとさ
ゑあるをけまぶぶうれをとんるまつよ
さとれよくよれれをれはゆうとよ文し
ゑを高かぶるとれをはよくゑ信ぶるゑ時

[illegible]
くたり世ばかりへし忠臣あるよかりしといふも
[illegible]
十日はあさ古郷門はぜ成家といふさふらい
を引ていく和はしなふかりあれたく
[illegible]
くたりゆくほどこころあらげしく入
乃はと称ぶ武士といふものはあるを大うを
くは禅門奈良へと申しけるはりうん
とそしをけふゆきかふるはしをと

かりとあ称ぶこうじはしゆくもやきそう
通しねそを古郷門はは見度乃はは
ゆんかうこい入乃度はは四一門とほろかしこう
そんとはたりこうこそこうきこうりう人
きりしをりまさいて奈良度
ハいはいとりせぐ下らこ一は度ごろう
せくたあうりうとかもへでなんげいく
赤はとり白山はかくこうはそろわと
をへて加賀へ京へはげうしして四郎の
おくよう人はへ乃ようこのうしをとりせそこんげこを

信西りんさんすれども御門
西光忠臣をもつてじとかの門
じいれりとうらみふくしゆうしてまの
座ん[illegible]をそでしいされとうとん法どを併せ
出家とうるへきよしをせんとおもへども用ゐ也
よりてあるかとおもくほとをまよりてをそれて
なべ入道といまをそれまつまを宮人ゆさもしい
をもはまりくさいごゆ四かんのよ法花をとうて
りんとをもくりせどさ京りんゆきゆ御ゆえい
西光右衛門ゆきゆ藤原ゆ西京むしやゆゆ

師長を西法寺ゆ[illegible]法寺い西京とぐ
つまられけるをなを入なく行ゆよりはうおく
入道ゆらよりあてをりてをどゆどをしてほをう
げむ宮人ゆきゆひをるのまへをそらげきけれ
ともをふつてきりなを和でなをくをこへ
かへを事り

信西首實檢事 付大炊殿獄門事

ちをけをとよを和を藤原ほうをくをへへを
けをがさいこゆ乃ををを紀伊ゆ二位よ月をを

まゐりたるとぞいふなる
出雲のせんじ元康
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二位とぞ申しける。信西ぐさいとりとなりてうぢ
がうさ申しは唐僧きうりうく生まれたりけん
なりとぞいひける。母へ久寿二
年九月廿九日に出せんぐやうにて
無窓山にゆきけいりうしゆ出家し給
那智山にこもりて唐土と高麗海渡門と
ふはたらいあくしてもれ出家とぞなり
給しぜんれんをねがひそまりうん
ぢいゆぐんとおこし天よりひぐ一日の
わひぎきうとなりとぞ日ましけるあ

なんぢしゆぐんれんをおうまんと
れもて日域よりゆきそ那智山といふぞこれは
ゆりけとふ天りぐまんとうに四月て源と
海れんまんとげく拾山よりうせ海
なりは皇これうきうく唐僧と
めされ来まして南前へよりうく和尚と
称と唐僧なまてこ語とこそ言ひ
人なりこ者れさへはうぐくなりまと信西
志度よりけうぐ源かれ設除浄精ゆ来
也ぞとぞ唐僧れいくだりけうど弘誓

破戒授除大戒をそ
なへ給へる信西うこ
ほどとしらんとやおもひ給へ
るらんぞんぜんれも事成て天ぐ
大城へいく百里ぞとら
へ給へ十まん餘里とか
へ給へる遺教寺とふるいばくよりわれ天竺山よ
りかへさるる七百里白象天の世とかぞへ
とうぞうとふまでこそうんぎとも
むしやかりい家んの門よりはなれ
ひとふんめいとふ事をうけたる
人名をまた孫の西をとうけ来命久遠といふ
女源門はなふかりる孫樹とふあり年
年に一てびらる枝よりあれこれ
なるを見とりくくふ人解り百餘日をわ
ゝいせいとうがりしまにとも伝記國とは河
くを都城ともうへさるり二百里をり焼
ほれくくるふる脳れくくわるは塔のもとよ
まり面んぞけまりまんどもやけ
てんけりけうとやくそん祈んぞぶりの
四りまして加りんとかりしきまひしきる

大雪山にを業苦といふ本あり是れ本のくを
はぐこよねをくくり何ものとくくを不老不死の
くをえらを西山に波羅といふむりありら
よを絶くれをくをいくぐきつ稲よ仏ををじ
をてまつるをいをを長山にこ三ぐこれをを
をを絶くれのををのむ人をいいをを仏あを
はをでも行をよむりくを仏をりをを
といへを瓶尖琴をををんせくで宝れを絶
ぐぐよをぐを拾宗ゆえをあれくえ天人
をでををるべを唐れを宗ををぐれをふ

をく天下をかををを法あをを一ををを絶
けをで唐僧をを国くををを老の山国より
をくを学ををれをを国ををををれこを
国れをいなれをもり寂んくくしをやを
をんぐをんて天ぐをくんぐむくを絶いをん
絶をくいをぐ絶をくを六十年れを
よかを一ををををををををををを
をををををくくくくれををををを
をんれくをんをををけををれをを
ぐぐをんをくをを人をををを天乃
をぐをんをりくをを絶ををををを

すれたる事しんれんをむさぼるに
むかつてどとして信西をうらいこゝろ
河内のものとして[illegible]
こゝろとりくはとりむさとしけ
とゝ光りてこゝろくばれんこの
おりのことなり

敵山[illegible]

さんゐの信元こゝろのはをいこん
へゆきなる山門の[illegible]

ぐゝくゝしわりをあらとをつわりけゝる
大[illegible]どもを山[illegible]さいくゝとゝ[illegible]
[illegible]山[illegible]
あらとをりゝゝ[illegible]
きてはをとゝ[illegible]信西[illegible]
さいくゝとゝ[illegible]
[illegible]
ありてゝゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]

せんさくとやいはんに丈尺巻よりたを
へぐ大師ぜんぐやうれとき神ぐちあまぐ色を
ちやうじやうよりく神ぐまぐこのぐうかわつ
まぐ色ゆへよ神ぐちまとしまし又二百人宮よ
すくりをちあれさいよ勝大くしじくりしも
やうくをちものわりと大師高ぐんぐかしれとき
ゆりくくまさりませぐ色とものく
とさふをさふれぐやしを涙杖といふ二やく
ぐりわくものとをせれぐくちくさとと
よさぬとけくぬつくものりをぐんよ法
ひ称ひくひとを色とりくさふをさふをて
やひ助老とをいふまくにちあを
ちを頭子といふくくを梵網經よりて
うとこれくを指れものとりをし井十九丈と
を下遊は国うさは実のやうんよかくられ
ひ護法使ちいくりと四来あるぐちよりもを
をを人をいぐぐちをくなれともあるひい
宇賀神は法とこれあるひを泥天はほくを
これ大師しゆんとりくふせちを西とんく
不空高んさく人胃丈神んぐゆもこりをこに

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑをもちてんぐをよばせもせいやうまんく偏
ゑをもさいとりんじをしけるをすてゝを山
ゆんはねぐりをあけるをもをく六ぬさいの
目を一ゞやうにかはるをゝをゝ一といひ二ゞふ
ゑをもをゝ二といふめをゝを三ゞをゝ
をりを朱ゞ朱ゞをゝ三ゞ
四めをゝをゝをゝをゝを心えをゝをゝを
をゝて伝ゑをめをゝしをゝ法皇げめを
をゝをゝんはむをゝをゝをゝをゝをゝ

けるを唐ゝ玄宗をゝをゝをゝをゝをゝをゝを
六をゝをゝをゝけるをゝをゝを目ゞ所用をゝ
腹ゞかをゝゞをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝけゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝ玄宗ゝ目をゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝゞをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
玄宗ゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
しをゝをゝめ伝をゝをゝをゝをゝをゝ
なふをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ

ものこれるを来こと来ることをばしてくく
はべりそしけるまでに話ることをりやと感
じあるれけるされば凡人なるねるやうし
さはもあるよい日記をさげはるを書をよく
見るべきまれるやうにもまた三れこやうにん
りはなるをけるとんの夢をもはんをも
あるをかるをし人やんいるとびくもしよ
かけるるも偶先れ金銭よりの治の西京府
の所をやまれれ国源上ることはのよう村
をんやれれ人ことまいなるもしをんせいの

りぶやうよりくちくしてほるを
うしあいとむるくしくるしてしば
中二年あるくまを治元年をもたるづこ
かくされるるもはみるほるたこさかくび
とをもけるをを話しけるを来ものの
他別れるをひを日をもれをあるをの
のるをやるを

後六波羅記別被立ることを
さ西記をは十日れあるを使の六をるを

[illegible]やうにあれこれのぞくこうりはんをひつきこりはんを
いうかぞとらひきまへとたきんわうこの日は秋三條
屋へ秋こうち入くいかぶこれやきこうひこあの納
を入乃れこのくきこもやきはくいまはかまこれ太
郎門れうれん屋をたるはこのひこうひこ南
面をほろかりこうそすりんとれてをたこと
こうきこうこうりまへとせこはんをいれば
下向とべきがはまをそれまいくこんあいとまぎ
ざんもむ神んなるいこいとべきとろそまへ
左衛門れとまきを盛ん遊さんあいも家ん

[illegible]あんもむれはこせいそこをゆうめきこへ
えぎやくこんまとこあらはさせまへ(西)
いそう武蔵とそれをひこをとりそこいう
ざんれを脇孔をけど何こうもべき
いそぎはは下向あるべしとまきまはぐ乃ら
世話をぐしげこをはこうきく敵よし
ろくこうくせんとこれは一つまやこも
なきをいじすんきこうまふきこうよ
ちくぐれこと家頁伝むりとあ中合をもげふ
かて新こうもしこをあ中ろ事れこうひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑさまるまゝ多勝と申す
つ稱乃しなりとあつくゆゝやれさどとなるゝど
ゑゝれど世勝なりとゝもけむしいく所際ふ
こちゝよゝゝんゝそこゝいれ有もまゝゝべ
けまなゝゝゝゝ家見とのゝゝゝんゝちゝゝれ
ゝ人六はゝれ四一門ゝもゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝすんいゝゝせゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝしゝて勢とゝゝて引ゝへとゝ有以下
ゝれゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆやゝんゝゝゝゝゝれゝ合戦ゝゝゝゝゝゝ

かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ほゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]なく十日ばかりなるよ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

元禄元年閏五月廿日　祥曲り付ち登山仕候

さぶほうこの田裏ゟ出かるまく十九日ゟ九ん
ぶとてゟ出かる日ゟ九ん出ぶ申しこゝろんの
九ん元形ゟこれ出ぐを信形ゟ出ぬ申ます道
命なりとて ふ来ゟけるぐこんぶい
してこゝきこゝろんてこゝよりぐやかて
ぬく出い出さはゆくゟひまに出ぬのをぐら
とれこゝるやふこゝきこゝろんいとゟのゟ
たゟ出ぐ花結ゟんぐゟまに出ぐゟ
ん来ぐくゟむこゝとゟぐんゟもあぐ

人ゟくゟ和なんぐゟまて元形ゟび
こゝいこゝぐし出こゝ出ぐこゝきこゝゟ清
げなゟぐゟこゝきこゝ人出ぐして大ぐん
ぐんこゝゟくゟ和こゝ門こゝゟくゟゆぐこゝま
ほゟこゝゟこゝぐこゝ出ぐこゝゟくゟ入
こゝまへこゝほこゝものゟこゝもゟ出ぐこゝて
まゟゟこゝゟこゝゟ矢こゝゟぐ出こゝゟくゟこゝて
ゟほゟこゝんぐこゝゟ白こゝゟ屋こゝゟ
出ぐゟこゝ出ぐこゝまへぐ信形ゟ下ぐして出ぐ
屋出こゝゟこゝゟこゝゟ下まぐこゝゟ元形ゟ

こゝろつゝしみてこゝろをあらためて
右衆門殿ゟ被仰渡之趣
ゆめ〳〵さゝ申間敷事
やうしの方ゟ申達候儀
けふ乃出座せさせ
ちやさんぬいしてこゝ
ひどゝつさゝまつる
かゞなるこゝ〳〵大力殿
出てく乃ゝ右之神のこゝ
ゟ出てくゝ市国ゟ

ちやくざ殿くぎやう乃
文殿ゟ下さるねゝ
くろひちやくゝゟ
かゝ人ゞ一度ゟ乃
ひと殿ゟゞ死さいゟ
けさゝりく
なふ井殿乃ゞ
ゝ殿ものゝ
ゝ殿ゟ
なり殿てく文殿

家のとなりにあゆみ出でしもの乞食
よろづくるはたもとれとも毛をぬきてそ
はりくわるれば乞食をたすけんねれ
十日ばかりすぎて此人出仕しそまひはまとも
右京門はなれ乞食乃家をはなれ人一人もなく
しまさぐはるよ思いでしるものよ門と入
そまふしるいさるもおくしるていも見られ
たとあるまは人とたしやうしく会義せで
いうどりうそのもしるしとせだかるなら
出しし彩元彩信とうして海民はいやう

おそしまし紀元彩元とうしてと元彩
とうおとまとまへ元もうしまし海とそし
此いへと人うはりよりたどと彩信とうし人
ちく信彩とつきまふ京門はなれ乞食いあ
まほどかるしやうは行そうとそといへで
かべよ耳天よりとしいよりはるをあしく
きしとうのうはたるのしひよりもひ
つまえ彩つかやうよりそまひとともいそ
ひぐしいまとと乞とはれ小ぞとはまへ見系
乃板そうかよりそうく元小ものけろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とていとぐらはじとて
ものうけたまはらんとて
喜び申せいよいよ
十九代目又十一代
をうかがひ
ど南ものしさ
むしんよゆうさ
とてもじよとせざ
いつもそ人よさ
ものしよりて暴

とてはく累家（いへ）に住居（すまい）とうるうん中
ものかけうるあ武蔵国を鎮定さんい
とてげどてきの国のものくらしてせのか
ゆかりう和泉紀伊国伊賀伊勢に人ふ
まちうけく大郷ありてあるる信郷つどかて
ふどうあれはうとものくくるるん事家
乃大郷とうう時てせうむしよい時利とやうぐ
うさんさうく大などとうけなどあもいそ
うわんをんよとうをうふてさてていどんの地と
なりとそうんぶふうもの家に物するけさかなど

いろいろんや長屋ともよこぜんれすもあるば
天下れ孫すま道れ[illegible]
右衆つれ[illegible]れを公命ん[illegible]大山寺と[illegible]
ほとこそこ[illegible]ひるまあひ[illegible]ひくまう
がひごくこいはごがなく行くまとやこり
公衆をつ西べしこそまこそいばくよかそし
まこそごろ戸れ[illegible]ほを一郎四[illegible]ほ
よないしほをこんめい屋よ家んしをいばくと
しのかごとをこ[illegible]んめ[illegible]れ沼寺[illegible]ば孫
こそまひけまこ[illegible]こ[illegible]れ[illegible]

又ほされいのこ[illegible]人とものしてこれあ
よ人こまれしはこそなこ[illegible]ふをれごとのこ[illegible]へこ
ほを通よ[illegible]右衆門れ[illegible]れこそ[illegible]へこそのこ[illegible]
如屋なごごけろひ[illegible]んこれけまこえ
彩つここも[illegible]人ど世れ中をこそこごさん
なを通これこそ世こまふべきけこれいは
伝教すと思こそころ[illegible]れ[illegible]ろ
せこし世代なんどもこれ日月をほまぶ祀
よりこそこりねものと天を天邪正八まんぐ
を王法といふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をもてをさめしかくそをもつて天下をゆづるべきとき賢者をえらびわたしてそうしわたしたまふ堯
のくに皇子さいをいたくしまして丹朱をこの地
はじめてをさめしてをさめ世ぐ堯のをさめしく
天下をおさめし二人ありしをたふとしとなほしまの
くにをなをもてをさめて帝摯をさづけて物民
ををさめしむべき丹朱をとりて九人皇
子二人をしたがへしたがへしたがへしたがへ
ひとり賢人をえらびて舜をまふ堯山中
より許由をとりたまふものかたをたがへしたがへ

ときうしをくらひしをとりてくちをあらを
洗ばるべきことをいはしめたまひけるよ許由つ
ましくこころをたがへしたがへしたがへ
高業をとりてあまりうへ冨貴
乃ちもて耳をあらはしてをいせん
箕山をうの巣父とて賢人牛をむかへて谷川
よりこれを水をのませんとしけるに耳をあらはしたる
乃ちゆへをとりあらはしたがへしたがへ
いくに賢人世ををさめしかくしはこれ生来をとしたる
日はをあらはしたがへ

下ものもなく上ものもなく
大家代々つぐるものもつくることもなく
田のなりなんぢ世とともに
やうやうとそこうるべきふなんで半ばとみな
よもしいつもくまいもふごもてはこぶ
けぶりもこりもとぶらんで半ばもうえしとく
むるもくりくりけるより伝部つい神よ
わるき大口ものよりこと入くをんよ夫子
乃ものもいたくなを大武はなをくまり
いなりものやうよりいるものく秋のえぞ
くしく紙ひも紙よきしく六けすくへでつきけるる
大酒はさぶ光くくとあや嶺ものもんとく
かぶと乃紙をしたてをまはあくしける

信西の息波宿を流す

きりとあやもやりくあけくまてて公つせんぶ
ぬうくへくて大夏くんぐく左近大臣師賢
大臣伊通公ものくさんぶいくへ
光をか納を入れたる息信信十二人乃使を
とれくくきたりんありし左大臣伊通

公なぶ光ゆ[illegible]
家ん[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
乃國[illegible]
中弁貞憲[illegible]
阿波の國[illegible]
[illegible]
敏[illegible]
國澄憲[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
香上林[illegible]
[illegible]
澄憲[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

はるこ人をひやれ無ぐるよいてらまうこ大
智人よ云えけるこぞ中けり

流布ふに如来ぜ寺ゆきの
高ほどよ行るぐく二十三日大内ゆれて色の
ども六ちうよりもすす面とそさらぎけ此
こ後色なしまぐく十日ある日こ行て
よ六ちうよ面いるすりするとそ乱し
先こ人間よは六ちうよりもとそつて
色れこも右馬左ひ行ちぐひ源事面

家れはもものら京白河よりこうしを
毎ちこでよもなんこれどもさいい河
年始れいとも月よもとぐどそで会義
乃毛やしちやうこうもし二十六日の事
く義人右ゆ年成親一ゆん御ちこへ
来ちく高ちいうゆ見さし世ゆ
ゆ歌れゆけぬこれよこぐるつてゆしそし源
京雅方ちゆ入御少納言ゆ
紀ふへなる物ちすや少将ゆ
こゆのなる物行ちませこそちも

けまで上皇おごろかを行ひ給ふ
ふくそおぼゆ先帝こえて廣上人出
ていはんとゝやはまさきぶすまひくまゝに
東坐さぶらひそまと上西門のまへへまく
小殿ゝ上とゝもひておもひ
ゝもおもふ先され家のあはれあいしやう
うんかく一人もなけまでゝ四ゝまう物てこゆき
なるいまゝ御まれまなりなまゝゝまりれ
風もさゝ出ゝとさゝ山ゝ四ゝしれをれさえく
おゝゝゝのくゝもゝゝゝ

なげきまほしいなる花のさくあけん
ミてなりまくをしみ花ちるを
けふくくかなしみあらるへきなもなき
海くよりかやうしやうれいのごとくそ
ミあまりけるせいまりてはるはるを
海くはるへミあるさなりもえとはせ
ひつまくしくむしとぬやうとくにむるかの
せそまれこうるかはもしらはるを
らしくはるをはるはしいるをそくぶ
ひとくはるをかしくくるをるをを

ぬひけるはるよりかはるはるををもの
をしくはるはるはるはるはるはるを
てさはるくれはるをはるはるはるを
はるをはるはるはるはるはるはるを
むはるをはるはるはるはるはるはるを
まをはるはるはるはるはるはるはるを
ハはるをはるはるはるはるはるはるを
せをはるはるはるはるはるはるはるを
人はるはるはるはるはるはるはるを

三上六波羅行幸事

海ほどりまちてしかれどんよりてとそ
めぐりしかがりをそえ[illegible]
ドゆるかなごく四そうそもしどもさし
あてドゆくむしてないしかれいつむ川
も大ゆきまでいでこしをけるとき田ど帝
ふおやしゆえそそうりくこそ先よりてせ
けること伊月九海中納言門仲今よりわた
せく場門九つだれ九ゆくるへどうはし
そそまりまける中ふまとと元とは
ふるまを先ゆえけるこうを通ふ新
大納言源ふなとしてはそんして
ぐ殿しさうあさまりんをやうなし
そそまりまで此門を今ふ平山ふ先そを
いふそでいうかるのうとそどとせどあのふ
上ふ女ふそうそれ出させまふし惟方
ふるをあのうのうさいたるまでとれまへども
今まをふ氏あやしそて号れとどそそと
ふきあげそいまりありいかくりそてまり
まで二條院は生信九ふ先四ふ十七

なりとこそまふしへまうしはべりけれ
かくてまもなく京のやうなりかの家のさんしゆ
ゆゑよりはじめ所々の人々しきを
所の中にもたなうしまうといふべう人とどめて
てまつりたんゆへなくおもひつけてせりはきを
乃御所伊賀のしやう京綱乃いとかどの乃
うへまれなりへよ小源太まさてさうしきに
なる飯尾御所貞康乃ちのうへのうへまれ
乃うへよりうしのれとまれ弟ぐくしてゆうさを
けうまゆう上京門とうしのとやりてをなど

もあるを御門のとをあけてくるまやうが
なりさきをすんれとけまを盗ニこのちの乃盗
むをそちのれ乃絵加ニ百しにして五御門
むがれがいんまをもちうまをんをうを御
くをうれ前はををのがこして六をうへをを
れをそをりけまをすゆへなくりをを
まをけまを平家れ人々いさんうをこれ
ずりがをなりやがて義人乃少年成乃
とをつく六をうをを居をなさんなり名
敵なりじとをもりいんがをもがこのをを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うんく二人もとゝのゝしりよりうんぬすみあと
もとゝのゝしりとはぞくもとけれども信濃もさい
たうじもれと御宗旨惟方ふかくまうしあ
ぞとさまへでこそ人どもれそうひとをこし
人とやうれまでいそき一品四条どのゝへ
らまをれもとに上皇もおそくまさびまさしく
わうはさまをれとゝるひれをはゝるものとと
乃をまへどもれそうまさとと上皇ぬれ時
ほうもんをふつゝい平左衛門乃ぎやうりい
ほ孫われものなもでゆくゝ四ちんどよふ

とう殿をまひけゝ四ち殿びとをそぐどゝ
けゝしゝゝふ乃びゝ殿ゝまいぬんとゝ
えゝ時四ちんどよとこゝ変れどゝていけゝ
ゝ殿ふゝぎなりせゝ春乳ぞの下られ
いゝぞ四ちんどよへいまゝびゝさゝけゝ乃
戸れ四ちよへまゝもけれどもゝもゝを
毎ゝゝどもとゝくゝりはすむ
乃ゝなゝゝひとゝ中おの耳ゝやゝ
まふぞわゝれなゝゝてゝゝとゝびひゝ
もなく新乃殿をもゝゝ殿ねぞ殿れどゝふ

そねまるよりとて大れかことのあるとり
ものいろいろかくのごとくつくつ
せるまけれどもさいさきにてたどる
つぎそうりそうりつぎのうちにてたりとも
信乃ちうこうこそいやくあるつ
ども一日金兄さうんれうんぎんこ
よせてかもいけまつぎかやうにとねぬ
つぎつぎせるまうるまこの人をうこく勢
ちいくかうしけまでいかのことをける
せまよのぼりまうんして流用とをうこう

そうしてはるなるぶりとうとねまこのぶ
しそうしてはるの中ぶちしけまで時れ人中
小ぶのうこうこそいけるうこうれ方長伊通
うち此中を中媒れ中しうしてあるじ忠
信乃忠うしてそうしん光義れ勇ありまく
そうちまれりあやまりとけうこうさめ質ちまん
まうんこうりく忠信れうまいとなせごと
せ乃そうまいけるわくぶそうしの業義へ
まいりまけうぶ乃そうけりうこうこいそぎこを
人まを義れよむりくり書て云うう〳〵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
ぐじ太郎と義秀おのおの大
きなる孫ども家ゝにあらはれ出
ぬ国の住人よりあつまりて
乃国より源多源太義通義清
源蔵人義清義隆山内
源蔵人義隆義通義清
さしたる国ゝにも出ぬ
とりあつめ五郎ぎつねの小太郎
[illegible]
金子十郎家忠ぐしうたるをそ
[illegible]

さしたる八郎弘家親
時貞与重ゝ国ゝより世ゝの源
清国ゝより大胡太郎大郎太郎信
太郎中太郎盛井博族戸源太郎甲斐の
国ゝより井沢四郎信義と云ひしく
む孫ゝの侍ゝの二百人あいそふ軍を
二ゝにわかちて[illegible]
[illegible]
西大東門ゝ[illegible]
[illegible]

すきうゑたれば、ひとこゑねつりたれば、
白がねのはりをのべたるごとくにて、
美濃のくにのおほさとりとけて、
居たりまいりける年、二十七大乃ゐたれば、
ちからぐまいたれものぐるを、
仏にたてまつるもあり、たねやにぞ居たれば、
けうとうの異別に、碁御ぐ六のをい一れむさ、
そしむさしけるとぞ流へりてをけるとし、
高れかくしたるまゝ、八すあまりなる、
よいけ地乃ぐまんうたれたるとひくた

をれさうゐんに、ものしかつ屋よりの
ふたりとなりこれをねたりぐこんぢまん
みつきれひこまつよりひれるひ
とのすたちかねうゐ、ちゐがくまんま
たりとしたきたりしられぶとたさ寄る
ぐりまたりるよ白あくまんれたるを
伝教のむされ面よりるるしらかりて
うと成親七年二十ぐさいたるぐこぐ今
ぐまてれ乃えたけ家れたしやう
面れうんうとあるれまきのひと快

ちいさくこしらへたる桜甲
乃ものゝ上に丸ものゝ
大刀ひかつまにさしそ
ゑつけたる大なる日の
ゝ年三十七まで
御れ人まいりたりし
を生年十九さい祝
ゝは八郎とて
をるゝひとをて
ゝの石切といふ太刀
をげこれをいく
まいらせ丸ゝ
なりつゝ
夫氣ゐ
ぞとて
ひとり白
太刀とて
夫ひ
ゝ
をへくゝを立てりけ

ちいさくこしらへたる桜甲
乃ものゝ上に丸ものゝ
大刀ひかつまにさしそ
ゑつけたる大なる日の
ゝ年三十七まで
御れ人まいりたりし
を生年十九さい祝
ゝは八郎とて
をるゝひとをて
ゝの石切といふ太刀
をげこれをいく
まいらせ丸ゝ
なりつゝ
夫氣ゐ
ぞとて
ひとり白
太刀とて
夫ひ
ゝ
をへくゝを立てりけ

[illegible]
ふしをがみたてまつるに、白うしろ
むけさまとぞおぼしめしたる。十二さいのとし
羽九夫ゐのかみ、ちうなごんにてありける
をとこ、いとうつくしげなる、をとこ
を一ぱいよむけてさきをみるにあらねばひげさへ
源氏ぐぐいれをのくぐれまゝにひさう
ゐてうしろ八幡宮れと源をとゝ
やけ二さいれ時流しをとりてをよりんをも
とゝをかをくるまのくるまにをひを

れぐし神よりへてぞ尼(げんぐん)をまけさせて
源をうゝ殺ざぬとゝ付まけまむかてよ天
きゝ左衛門八まん大ぐ[illegible]といつけよいをを
石れをぞよ住者の和れをいとうをを
おぐせうしをそひぎをとゝ八幡宮(やはたぐう)住
宗(むねとき)ををゝもしゝ時ゑよいけどゝ者十
人れをびをしのよ尼ひげをもをきれを
をむけをとをを奥別れ住人(じゅうにん)文
書(ぶみ)といふかぐをくしむりをやくゝ
さしぐんせゝぐ西源ををてゝ人をまをふをを

三男なりしかども形部さげうをおひけるをつゐに
源氏のたねとなりぬとこそ聞まゐらせしを義朝
又義朝のゝちさとゝ見まゐらせしかども
いかゝ人人よりをせまゐらせんとて六ちゝへ
ゝせをんなを所をけるこそばかりてんよりぞきこ
えゝかりしかいかゞ中ゝくてゝきやうれ
いさゝかあるべきにあらずちいさきとはいへども
あなどりをもちゝやうにすべきにあらず
平治元年十二月二十七日をかのうくだり
のすけなりふさのふれ宣旨をこうぶるこゝを
とゝくゞしくなりふ朝日ひるをゝいてゝ
くもりなくぐろかるべきやうにくこゝふ
ゆゝしき世界をなりけるとぞくまゐれば
天ぐゝをんぞんを世をもちゝるぞ日本ゝ
よりもくゝを義朝ゝ一ぢよりまゐらぐき武士に
あるべしゝをゝ見まゐらせるよ形部光泰
光基も公ゝをもりをしてゝけるを義朝
ぐやゝをゝをけれゝをもゝ大すれまゐの小井
敵よりゝ利とつゝるゝをゝをゝひゝまゐり
きりをゝしゝものをゝさゝひけるゝを公をまゐ合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平治物語卷第一